

平成 31 年度使用高等学校
(第 1 部)
教科書編集趣意書
外国語 (英語表現 I) 編

目次

	ページ
009 開隆堂 EXPRESSWAYS English Expression I ※.....	1
109 文英堂 UNICORN English Expression 1	10
109 文英堂 Grove English Expression I	12
226 チアーズ ATLANTIS English Expression I	14

※編修趣意書

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
24-124	高等学校	外国語	英語表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
9 開隆堂	英 I 319	EXPRESSWAYS English Expression I		

1. 編修の基本方針

(1) 学習活動からコミュニケーション活動へのスムーズな移行

本書は四つの領域の言語活動を有機的に関連づけて 4 技能を総合的に育成できるよう場面シラバスで構成し、場面に絡めて文構造や慣用表現を効果的に配置し、身近な題材、取り組みやすい言語活動を通して生徒の意欲的な自己表現につなげることを重視した。各活動はコミュニケーションの必然性や妥当性を考慮し、基本的な知識を運用して各技能を実践的な使用に結びつけられるよう配慮した。また、言語の使用場面に特化した言語活動を行うための独立したコーナー **How to Say It** を各見開きで 4 箇所にした。

(2) 「コミュニケーション英語 I」との円滑な連携・接続

生徒の実態に応じた身近な場面における言語活動を経験させることにより、生徒が中学校や高等学校における学習事項を繰り返しながら学習し、4技能の定着を図ることができるよう配慮した。また、生徒の学習負担を考慮しつつ、高等学校段階にふさわしい自然な語彙・表現と構文を用いた。

(3) 生徒の興味と関心を高め、学習意欲を喚起する題材

題材は異文化理解、日常[学校]生活、スポーツ、伝統文化、映画、芸術、慈善活動など幅広い分野から生徒の興味・関心に即したものを精選し、語学学習だけでなく教科横断的な学習もできるよう配慮した。

2. 対照表

本教科書は教育基本法、学校教育法の精神に則って編修したが、以下に特に教育基本法第 2 条（教育の目標）に典型的に対応する部分を示す。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ番号)
題材の配列・構成	「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、	全課

	健やかな身体を養うこと」については、教科書の全題材を通して教科の目標に迫ることで達成できるととらえている。「幅広い知識と教養を身に付け」は、各題材の選定と扱いに活かしている。 (第1号)	
教科書全体の活動	全課において、ペア活動やグループ活動を通して互いに学び合い、高め合う活動が行えるように配慮した。また、グループやペアでの議論の題材を設定するなどにより、お互いの意見の異同を確認し、尊重する態度を養うことによって、個人・集団としての正義と責任、自他の敬愛と協力の精神が養えるようにした。(第3号)	全課
Part 1 身近なことを表現しよう		
Unit 1 My Family's Dog	自分のペットについて紹介する活動を通じて、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度や、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した。(第3号, 4号)	pp.6-7
Unit 2 My Sister	家族について紹介する活動を通じて、個人の価値を尊重する態度や、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した。(第2号, 3号)	pp.8-9
Unit 3 Introducing a Friend	友人について紹介する活動を通じて、個人の価値を尊重し、生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度や、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した。(第2号, 3号)	pp.10-11
Unit 4 How to Get to School	自分の通学方法を説明する活動を通じて、個人の価値を尊重する態度や、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した。(第2号, 3号)	pp.12-13
Unit 5 My Dream	将来の夢について語る活動を通じて、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した。(第2号)	pp.14-15
Unit 6 Five Years Ago and Now	5年前と今の自分を比べて発表する活動を通じて、真理を求める態度や、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを目指した。(第1号, 3号)	pp.16-17
Unit 7 My Favorite Subjects	科目の好き嫌いについて発表する活動を通じて、個人の価値を尊重する態度や、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した。(第2号, 3号)	pp.18-19
Unit 8 Chichibu Night Festival	自分の出身地について説明する活動を通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した。(第5号)	pp.20-21
Part 2 表現の幅を広げよう		
Unit 9 Kenta's Favorite Pastime	余暇の過ごし方について発表する活動を通じて、個人の価値を尊重する態度や、自主及び自律の精神を養うとともに、生活との関連を重視する態度を養うことを目指した。(第2号)	pp.24-27
Unit 10	自分が尊敬している人物について話す活動を通じて、真理を求め	pp.28-31

Yuta's Hero	る態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、個人の価値を尊重する態度や、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した。(第1号, 2号, 3号)	
Unit 11 Where Would You Go?	行ってみたい国について話す活動を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第5号)	pp.32-35
Unit 12 Yuki's School Festival	文化祭での経験について話す活動を通じて、豊かな情操や創造性を培い、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことを目指した。(第1号, 3号)	pp.36-39
Unit 13 Takashi's Chanko-nabe	将来の夢について話す活動を通じて、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、勤労を重んずる態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第2号, 3号)	pp.40-43
Unit 14 Can You Guess?	漢字の起源について説明する活動を通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国を愛する態度を養うことを目指した。(第5号)	pp.44-47
Unit 15 Different Types of Tennis	2種類のを比較して違いについて説明する活動を通じて、真理を求める態度や、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを目指した。(第1号, 2号)	pp.48-51
Unit 16 What to Wear	海外旅行での服装についてアドバイスする活動を通じて、自主及び自律の精神を養うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第2号, 5号)	pp.52-55
Part 3 自分のことばで表現しよう		
Unit 17 How to Write E-mails	インフォーマルな文体とフォーマルな文体のメールを比較する活動を通じて、自他の敬愛と協力を重んずる態度や主体的に社会の形成に参画する態度、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第3号, 5号)	pp.62-63
Unit 18 The Rabbit in the Moon	日本の昔話を読み、要約する活動を通じて、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第3号, 5号)	pp.64-67
Unit 19 Triple Self-Portrait	自分の好きな絵画について紹介する活動を通じて、豊かな情操と道徳心を培うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第1号, 5号)	pp.68-71
How to Say It 1~4	「道案内」「旅行」「食事」「買い物」など、特定の場面でなされる対話を通して特有の表現を学び、実際に活用することで、生活との関連を重視する態度や他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。(第2号, 5号)	pp. 22-23, pp.56-61

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 幅広いコミュニケーション活動と音声指導が展開できるよう、リスニングから入る課を複数設定している。
2. 人前で発表する際のコツをわかりやすく解説し、英語での効果的な発表ができるようになるための独自の工夫が凝らしたコーナーを設定している。
3. 目にやさしく、読みやすい活字を採用している。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
24-124	高等学校	外国語	英語表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
9 開隆堂	英 I 319	EXPRESSWAYS English Expression I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う」という学習指導要領「英語表現 I」の目標を週 2 時間の授業時数で保障、実現するために、特に以下のような点を工夫して編修し、特色とした。

(1) 編修上特に意を用いた点

- a. 「コミュニケーション英語 I」で養ったコミュニケーション能力の基礎を踏まえ、四つの領域の言語活動を有機的に関連づけ、4 技能を総合的に育成することを編修上の基本方針としつつ、特に話すこと、書くことの活動につながるように工夫した。
- b. 外国の生活や文化について理解を深め尊重する態度を育成するとともに、我が国の伝統文化を見直し、これを外国に発信していくための基礎的な技能の育成に資するとともに、豊かな心を育み、国際社会に生きる地球市民を育成するための題材を豊富に取り上げた。
- c. 言語の使用場面は、「英語表現 I」の目的を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、有機的に組み合わせ活用できるように独自のページを配した。言語活動を設定する際には、ペアワークなどを通して、場面特有の表現に習熟し、基礎的なコミュニケーション能力が集中的に養えるよう工夫した。
- d. 学習者には学ぶ過程が、指導者には教える手順が見て取れるよう、わかりやすい紙面構成、レイアウトとした。

(2) 特色(全体構成と各課の構成など)

- a. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、事実や意見などを多様な観点から考察したり論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えたりする能力を養うために、四つの領域の言語活動を有機的に関連づけつつ総合的に指導できるよう、以下のような項目で全体を構成した。
 - ア. Part : 段階を踏んで自己表現活動ができるように、3つの Part に分け、それぞれ「1. 身近なことを表現しよう」「2. 表現の幅を広げよう」「3. 自分のことばで表現しよう」とテーマを設定した。
 - イ. Unit : 4 技能を有機的に関連づけ、自己表現能力を育成するための通常課。Part 1 は 8 課、Part 2 は 8 課、Part 3 は 3 課の全 19 課で構成。※以下、Part 1 は①、Part 2 は②、Part 3 は③と略記。

- ウ. **How to Say It**: 言語の使用場面に特化した言語活動を行うための独立したページを見開きで4箇所にした。
- エ. **Appendix**: 英文を書く際に欠かせない「英語の句読法」, 各課で取り上げた「Useful Expressions のまとめ」, リスニングの課の「Listening Script」をコンパクトにまとめた。
- b. 全体構成と併せて4技能をバランスよく育成できるように通常の課を見開き単位のページ構成とし, 豊かな心を育み, 国際社会に生きる地球市民を育成するための題材を豊富に取り上げた。
- ア. **本文**: 重要表現を含んだ本文を聞いたり, 読んだりして, その理解・定着を図る。生徒への学習負担に配慮し, 各課の総語数を①は85~100語, ②は120~150語程度にそれぞれ抑えた。また, 「聞いたり読んだりしたことに基づき, 情報や考えなどをまとめ, 発表する」能力を多角的に育成できるようリスニングから始まる課を12課, リーディングから始まる課を7課設定した。各課には生徒の学習意欲を喚起するために, 本文内容を表すイラストを4コマ配置した。
- イ. **Questions & Answers**: 本文の内容・要点の理解をチェックする設問。この作業の拡充を通じて教室では英語によるQ&Aが活発に行われ, 生徒が英語に触れ, 使用する機会が多くなるようにした。
- ウ. **Useful Expressions**: 本文で学ぶ重要表現について, わかりやすい例文を提示, 補充し, 学習内容を整理, 深化できるようにした。また, **Notes** にて簡単な解説を付し, 理解・定着を図れるように配慮した。
- エ. **Check**: Useful Expressions で学んだ重要表現の理解・定着を図れるように, 確認問題を配した。
- オ. **On Closer Look**: リーディング・ストラテジーを体系的に学ぶコーナーを設置。英文を読む際のポイントを本文を引用して解説している。②のみに配置。
- カ. **Exercises**: A では本文の内容, Useful Expressions で学んだ重要表現を用いた別の英文を読みながら, その理解・定着を図ることを目的としている。また, B, C では生徒自身が英作文を仕上げることにより, 論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える自己表現能力を育成できるように配慮した。
- キ. **Word Bank**: Exercises で英語表現活動を行う際に, より広がりのある英文が書けるように語彙の拡充を図れるようにした。

上記のように, 学習指導要領外国語科(英語表現I)の目標と内容が十分達成できるような構成・内容になるよう特段の配慮と工夫をした。

2. 対照表

英語表現Ⅰの標準単位数は2単位（年間70時間）であることから、本教科書は週2時間の授業時数を想定して編修した。なお、学校行事などのため年間140時間の8割程度が実質可能授業時数であることに鑑み55時間に抑え、本教科書の学習が終えられるよう、全体の分量に配慮した。

以下、具体的に学習指導要領との対照及び配当時数の詳細を示す。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所
各課にExercisesを配し、事実や意見などを多様な観点から考察したり、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を育成するとともに、積極的にコミュニケーションを行うための基礎的な能力を養えるように配慮した。	第5 英語表現Ⅰ 1 目標	p.7, p.9, p.11, p.13他
各課のQuestions and Answers	第5 英語表現Ⅰ 2 内容 (1)ア	p.6, p.8, p.10, p.12他
各課のExercises	同イ	p.7, p.9, p.11, p.13他
各課のExercises	同ウ	p.7, p.9, p.11, p.13他
On Closer Look / Tips for a Good Presentation	(2)ア	p.27, pp.30-31
On Closer Look / Unit 18	同イ	p.26, p.34, pp.64-67
On Closer Look / Tips for a Good Presentation / Unit 14, 16	同ウ	p.27, p.31, pp.34-35, p.39, p.43, pp.46-47, p.51, pp.54-55
Unit 15	同エ	pp.48-51
各課のExercisesについては、中学校や「コミュニケーション英語Ⅰ」における基本的な学習事項を踏まえ、本文で聞いたり、読んだりしたテーマをもとに、情報や考えなどを伝える能力の向上が図れるように配慮した。	第5 英語表現Ⅰ 3 内容の取扱い (1)	p.7, p.9, p.11, p.13他
各課の本文はリスニングの課とリーディングの課を設定しており、本文で聞いたこと、読んだことと有機的に関連付けて、話したり書いたりする活動ができるように配慮した。	同(2)	p.6, p.8, p.10, p.12, p.14, p.16, p.18, p.20, p.24, p.32, p.40, p.48他
各課の本文は生徒に身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる多様な場面を設定し、中学校や高等学校における学習内容を繰り返し学ぶことにより定着を図ることができるように配慮した。	同(3)	p.7, p.9, p.11, p.13他
Say It / How to Say It 1-4 / Unit 17 / Write It	第3款 英語に関する各科目に共通する内容等 1 [言語の使用場面の例] a	前見返し, pp.22-23, pp.56-63, 後見返し
Unit 1, 2, 4, 7, 12	同b	pp.6-9, pp.12-13, pp.18-19, pp.36-39
Unit 9	同c	p.24, p.26

Unit 11, 12, 14, 16 / How to Say It 4	第3款 英語に関する各科目に共通する内容等 1 [言語の働きの例] a	pp.32-39, pp.44-47, pp.52-55, p.61
Unit 5, 11, 13, 17 / Write It	同 b	p.14, pp.32-35, pp.40-43, p.63, 後見返し
Unit 4, 6-8, 11-12, 14-16, 18-19 / How to Say It 1, 4	同 c	pp.12-13, pp.16-23, pp.32-39, pp.44-55, pp.60-61, pp.64-71
Unit 11, 19	同 d	pp.32-35, pp.68-71
Tips for a Good Presentation / Unit 17	同 e	p.27, p.31, p.35, p.39, p.43, p.47, p.51, p.55, p.62
語については、生徒に学習負担を強いることのないように、適切な語を設定するようにした。	第3款 英語に関する各科目に共通する内容等 2 ア 語、連語及び慣用表現 (7)	前見返し, pp.6-71, 後見返し
連語及び慣用表現については各課のUseful Expressionsにて運用度の高いものを取り上げ、必要に応じてNotesに簡単な解説を付した。	同 (イ)	p.6, p.8, p.10, p.12他
Unit 12のOn Closer Lookで「主語＋動詞＋目的語＋分詞」、Unit 14のUseful Expressionsで「主語＋動詞＋ifで始まる節」などを扱った。	第3款 英語に関する各科目に共通する内容等 2 イ 文構造のうち、運用度の高いもの	p.30, p.38, p.45, p.53, p.67他
Unit 1のCheck, Exercises A / Unit 2のExercises A / Unit 3のUseful Expressions, Check	第3款 英語に関する各科目に共通する内容等 2 ウ 文法事項 (7)	p.7, p.9, p.10, p.11他
Unit 1のCheck / Unit 5のCheck / Unit 9のExercises A / Unit 15の本文 / Unit 16のCheck	同 (イ)	p.7, p.15, p.26, p.48, p.53他
Unit 16のExercises A / Unit 18の本文	同 (ウ)	p.54, p.64他
Unit 12のCheck / Unit 19のExercises	同 (エ)	p.37, p.71他
Unit 4のUseful Expressions, Check / Unit 7のUseful Expressions, Check	同 (オ)	p.10, p.11, p.18, p.19他
Unit 10のUseful Expressions, Check / Unit 11の本文, Useful Expressions, Check / Unit 12のExercises A	同 (カ)	p.29, p.32, p.33, p.38他
Unit 2のCheck / Unit 11	同 (キ)	p.9, pp.32-35他
Unit 16のExercises B / Unit 18のExercises B / Unit 19の本文	同 (ク)	p.55, p.66, p.69他

(別表)

図書の構成・内容	箇所	配当時数
Unit 1 My Family's Dog	pp.6-7	2
Unit 2 My Sister	pp.8-9	2
Unit 3 Introducing a Friend	pp.10-11	2
Unit 4 How to Get to School	pp.12-13	2
Unit 5 My Dream	pp.14-15	2
Unit 6 Five Years Ago and Now	pp.16-17	2
Unit 7 My Favorite Subjects	pp.18-19	2
Unit 8 Chichibu Night Festival	pp.20-21	2
How to Say It 1 道案内① Asking the Way / ② Changing Trains	pp. 22-23	2
Unit 9 Kenta's Favorite Pastime	pp.24-27	3
Unit 10 Yuta's Hero	pp.28-31	3
Unit 11 Where Would You Go?	pp.32-35	3
Unit 12 Yuki's School Festival	pp.36-39	3
Unit 13 Takashi's <i>Chanko-nabe</i>	pp.40-43	3
Unit 14 Can You Guess?	pp.44-47	3
Unit 15 Different Types of Tennis	pp.48-51	3
Unit 16 What to Wear	pp.52-55	3
How to Say It 2 旅行 Sightseeing	pp.56-57	1
How to Say It 3 食事 Eating Out	pp.58-59	1
How to Say It 4 買い物 Shopping	pp.60-61	1
Unit 17 How to Write E-mails	pp.62-63	2
Unit 18 The Rabbit in the Moon	pp.64-67	4
Unit 19 Triple Self-Portrait	pp.68-71	4
	合計	55

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
109 文英堂	英 I 311	<p style="text-align: center;">UNICORN English Expression 1 代表著作者 市川泰男・塩川春彦</p>

編集の基本方針・教科書の特徴

本書は教育基本法第2条に示された目標を達成することを目指し、平成21年改訂高等学校学習指導要領に示された「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成」しつつ、「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う」ことを主たる目標とした。英語を通じてのコミュニケーション能力を養成するため、随所にリスニングやスピーキングの機会を設けた。また、論理展開や表現方法を工夫しながら伝える能力を養うため、時系列や列挙など、論理展開例を示し、理解させ、練習させる場を設けた。

題材や内容に関して次の諸点に留意した。まず題材は、学習者に身近な男女共通に関係のあるものを選んだ。また、エッセー、ブログ、日記、絵はがき、新聞記事など実践的なコミュニケーションの場面を設定し、その内容も日常生活、文化、科学、スポーツ、環境保護など広く各部門に及ぶようにし、それらについて英語で表現し、積極的にコミュニケーションを図るようにした。

教科書の構成

本書は UNIT 1, UNIT 2, UNIT 3, 付録で構成した。

- ◎UNIT 1 は各課2ページ配当で、学習者の一日の行動を英語で表現できるように、動詞を中心に学習する場とした。各課はリスニング問題→BUILDING BLOCKS(例文)→REPLACE THE VERBS!(置換練習)→FOCUS!(解説)→EXERCISES(練習)→CHALLENGE(発展)で構成した。
- ◎UNIT 2 は各課4ページ配当で、UNIT 1 で学んだ文の骨格や構造を土台にしなが、文を豊かにするための様々な表現を身につけることを目標にした。各課の構成は BASIC EXPRESSIONS (文法や表現の学習、定着)→A STEP FORWARD(より豊かな表現の学習の場)→EXPRESS YOURSELF(学習した文法や表現を使った自由英作文)で構成した。
- ◎UNIT 3 は学習者の定着度に合わせ OPTIONAL UNIT とした。各課4ページ配当で、UNIT 1, 2 で学んだことを生かし、パラグラフを作り、まとまった内容を伝える方法を学ぶ場とした。各課の構成は BASIC EXPRESSIONS→A STEP FORWARD→EXPRESS YOURSELF(学習した文法や表現を使い、まとまりのある文を書いてパラグラフを作ったり、話したりする)で構成した。
- ◎2, 3課おきに付録 BUILDUP を置いた。全8回とし、BUILDUP 1 では他動詞と自動詞の違い、BUILDUP 2-8 では主な前置詞・副詞を取り上げ、中核的な意味を学習しながら、語いや表現の拡充をはかった。巻末には LANGUAGE FOCUS(文法項目のまとめ)、動詞別表現集、機能別表現集、トピック別表現集を用意した。

教材配当表

課	内 容	文 法	表 現
UNIT 1 動詞を使いこなそう			
1	朝	主語	
2	教室	S+V	
3	放課後	S+V+O / S+V+O+O	
BUILDUP 1 動詞 (他動詞と自動詞)			
4	夕方	S+V+C / S+V+O+C	
5	週末と祝日	句動詞	
BUILDUP 2 UP			
UNIT 2 いろいろな表現を身につけよう			
6	旅行	進行形 現在形と現在進行形の違い	「好き」 「時間」
7	余暇活動	未来 「未来」を表す現在形	「(断定を避けて)考え」を表す 「頻度」
BUILDUP 3 DOWN			
8	食べ物	現在完了形[経験, 完了] 過去完了形[経験, 完了]	「五感」 「数量」
9	国際交流	現在完了形[継続], 現在完了進行形 過去完了形[継続], 過去完了進行形	「希望」 「時間」
BUILDUP 4 IN			
10	音楽	助動詞 may, must 助動詞 may have done, must have done	「気持ちの変化・持続」 「比較」
11	町	助動詞 used to, would / should, must 助動詞 should have done, had to	「義務・当然」 「場所」
12	文化活動	受動態 / S+V(= 使役動詞)+O+C(= 原形不定詞) 受動態が好まれる場合	「使役」 「程度」
BUILDUP 5 OUT			
13	読書	to 不定詞[副詞的用法] to 不定詞[形容詞的用法]	「推薦・忠告」 「譲歩」
14	コンピューター	to 不定詞[名詞的用法], 動名詞 to 不定詞と動名詞の違い	「許可・禁止」 「例示」
15	ファッション	S+V(= 知覚動詞)+O+C(= 現在分詞) S+V(= 知覚動詞)+O+C(= 原形不定詞)	「合う」 「言い換え」
BUILDUP 6 ON			
UNIT 3 文章を組み立てよう			[OPTIONAL UNIT]
16	スポーツ	分詞 with+名詞+現在[過去]分詞	「即時」 「理由・結果」
17	映画	関係代名詞[制限的用法], 間接疑問 関係代名詞[非制限的用法]	「不確か・疑念」 「対比」
18	私の夢	関係副詞[制限的用法] 関係副詞[非制限的用法]	「譲歩」 「自分の意見」
BUILDUP 7 OFF			
19	環境	分詞構文 with+名詞+形容詞, 副詞, 前置詞句	「強調」 「賛成・反対」
20	世界情勢	仮定法過去 「条件」を表す副詞節	「部分否定」 「比喩」
BUILDUP 8 OVER			

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
109 文英堂	英 312	<p style="text-align: center;">Grove English Expression I</p> <p style="text-align: center;">代表著作者 倉持三郎・川端一男</p>
<p>編集の基本方針・教科書の特徴</p> <p>本書は教育基本法第2条に示された目標を達成することを目指し、平成21年改訂高等学校学習指導要領に基づいて編集された。特に学習指導要領に示された「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う」ことに配慮した。</p> <p>具体的には、各課にスピーキングやライティングの機会を設けたほか、4技能を総合的に学ぶことができるスピーチに特化したページを設けた。教科書の題材については、学習者に身近なものを取り上げ、自分の身の回りのことについて情報や考えなどを伝える能力の向上を図ることを目指した。</p> <p>各課の構成</p> <p>◎WARM-UP：本課に入る前に、英語の文のしくみを4つの項目に分け、解説した。特に英語と日本語の語順などの違いに注意させるようにした。</p> <p>◎正課：話したり書いたりする言語活動に必要な文構造・文法を各課2項目ずつ学習する。各項目に対応した問題を設置し、文構造・文法が定着するように意図した。CHALLENGEでは完成した英文を参考に、自分や身のまわりのことを表現する問題を置いた。その課の話題について自由に話し合う場として、TALK WITH A PARTNERの問題を置いた。</p> <p>◎HOW TO MAKE A SPEECH：全4回とし、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能を総合的に学習したあとに、身近な話題についてスピーチができることを目標とした。</p> <p>◎PICTURE DICTIONARY：全12回とし、イラストを使って家や学校でのものの名称や行動表現を学習し、身近な話題について情報や考えなどを伝えることができるようにした。</p> <p>◎E-mail Communication：全3回とし、Eメールの構成を学習した上で、「勧誘する」「問い合わせる」「お礼を述べる」という機能別のメールの書き方を学習する。最後に自分でメールを書く問題を置いた。</p> <p>◎SUPPLEMENTARY PRACTICE：全5回とし、パラグラフの書き方を学ぶ。左ページの例文と解説でパラグラフの構成を学習したあとに、右ページの問題で定着をはかる。最後にその課で学んだパラグラフの構成を使って、自分でまとめた文章を書く問題を置いた。</p> <p>◎文法のまとめ：各課の文構造・文法項目の解説と補充例文を巻末に収録した。</p>		

教材配当表

WARM-UP 英語の文のしくみ		WARM-UP 英語の文のしくみ	
UNIT 1 [基本編]		UNIT 2 [発展編]	
課 場面	文構造・文法	課 場面	文構造・文法
1 学校	SV	11 スポーツ	比較
2 友だち	SVC, SVO	12 ペット	現在分詞, 過去分詞
3 朝	時制 [現在], 現在進行形	13 趣味	動名詞, to 不定詞 [名詞的用法]
4 週末	時制 [過去, 未来]	14 旅行	to 不定詞 [形容詞的用法, 副詞的用法]
5 コンピューター	助動詞	15 買い物	SVO (=that 節), SVO (=疑問詞節)
HOW TO MAKE A SPEECH 1 自己紹介		HOW TO MAKE A SPEECH 3 本と映画の紹介	
6 町	副詞節, It の用法	16 外食	疑問詞+to 不定詞, too~to 不定詞
7 夏	SVOO, SVOC	17 環境	形式主語 it, SVO+to 不定詞
8 日常	There 構文, 受け身	18 映画	関係代名詞 (who/that, which/that)
9 本	現在完了形 [完了, 経験]	19 冬	関係代名詞 (what), 関係副詞 (when)
10 昼休み	現在完了形 [継続], 現在完了進行形	20 試験	仮定法過去, wish+仮定法過去
HOW TO MAKE A SPEECH 2 旅行		HOW TO MAKE A SPEECH 4 携帯電話またはコンピューター	
PICTURE DICTIONARY 1~6		PICTURE DICTIONARY 7~12	
E-mail Communication 1 勧誘する		E-mail Communication 2 問い合わせる	

SUPPLEMENTARY PRACTICE [応用編]	
課 タイトル	項目
1 My school	パラグラフの構成
2 The Tale of Peter Rabbit	時間的順序
3 New Zealand and Japan	比較・対照
4 Why did the dinosaurs disappear?	原因・結果
5 Do you like school uniform?	賛成・反対
E-mail Communication 3 お礼を述べる	

番号・略称	記号・番号	教科書名
226	英 I	ATLANTIS English Expression I
チアーズ	321	代表著作者 Steven Mitchell

■編集の基本方針及び編集上特に留意した点又は特色

本書は、文法を基礎とした英語でのコミュニケーションのための教科書です。各章毎にひとつの明確な文法ポイントに焦点を当て、生徒が実際にそれを有意味に使い、生徒同士、またALTや教師と会話の練習をする機会を多く設けています。つまり本書の文法はコミュニケーションの取り方を学ぶためのツールなのです。

各章の文法ポイントは、自然で分かりやすい例文で示されます。組み合わせや、複数の中から回答可能なシンプルな練習問題から始まり、会話やショートストーリーへと発展していきます。このように、簡単な練習問題から徐々に難しいものへと挑戦させるように発展していくスタイルは、異なる生徒のレベルを考慮しながら、どのくらいの時間をそのレッスンに費やすかを個々の教師が自由に選択できるという柔軟性を秘めています。生徒の異なるレベルに対応する上でも、また授業を円滑に進めていく上でも万能な教科書を目指しました。

本書の大きな特徴として、各章は冒頭のボキャブラリーセクションから始まります。レッスンのはじめに語彙を紹介することは、教師が生徒間のレベルの差を大幅に縮められることに繋がります。生徒を同じスタートラインに立たせることで、授業はより円滑に進み、教師が教える上でもまた生徒が学ぶ上でもよりスムーズになるでしょう。加えて、日本語訳付きの語彙をあらかじめ紹介することで、教師が日本語に翻訳する必要がなくなり、英語での授業がより充実したものになるはずです。

本書は、数多くの写真を使い、生徒が文法を自然な文脈とそれぞれの場面でどのように使うのかをより理解しやすくしています。写真はとてもカラフルで美しく、生徒に英語を学ぶことに対する刺激を与え、文化の違いを分かりやすく理解させる要素を持っています。

■教育基本法や学習指導要領との関連等

数多くの聞き取り読み取り問題を掲載しており、具体的な質問、一般的な質問、推論質問をバランスよく取り扱っています。さまざまな分野を対象としたそれらの質問は、異なるレベル

の生徒にそれぞれ対応します。また4技能（読む・書く・聞く・話す）全てをバランスよく、且つ公平に扱い、生徒があらゆる角度から文法ポイントが得られるよう配慮しました。

また本書は、規則的で徹底された発音と文のストレスを学ぶセクションを設けています。20ページに及ぶこのセクションでは、母音と子音の特徴を網羅しており、まずは孤立した単語を、のちにその単語を含む文章を例に上げ、単語と単語のスムーズな連結や一般的な短縮方法を示しています。‘ju’ (Did you) や ‘jer’ (Did your) のような短縮方法、また、文中のストレスポイント、例えば、形容詞 / 名詞 (a beautiful girl)、副詞 / 形容詞 (it’s very hot)、リズム (hot / dog) などをわかりやすく解説しており、より自然な会話の手助けになるでしょう。

■教科書の編成、教科書内容の組織、配列

- Lesson 1 — I like meeting new people.
(不定詞 vs. 動名詞)
- Lesson 2 — I usually wake up at 7:00 in the morning. / Valentine’s Day.
(頻度に関する副詞)
- Lesson 3 — We’re going to take a trip.
(be + going toを使った未来形)
- Lesson 4 — I’m meeting a friend for dinner tonight.
(be + ~ingを使った未来形)
- Lesson 5 — I guess I’ll just watch TV.
(willを使った未来形)
- Lesson 6 — How about going to a party?
(提案の基本型)
- Lesson 7 — You should go to Venice Beach.
(アドバイスの基本型)
- Lesson 8 — You can’t park here. / Apartment Hunting.
(許可の基本型)
- Christmas — Christmas is my favorite time of the year.
- Lesson 9 — How was your vacation? / Did you enjoy it?
(was / were / did)
- Lesson 10 — Little Red Riding Hood went to Granny’s house.
(過去形 1)
- Lesson 11 — Did you have a good time?
(過去形 2)
- Lesson 12 — What happened?
(過去形 3)
- Lesson 13 — I used to live in America.
(used toを使った過去形)
- Lesson 14 — I was watching TV when the phone rang.
(過去進行形)
- Lesson 15 — You may be interesting, but sorry, I’m not interested.
(形容詞 ‘ed’ と ‘ing’ の用法)

Pronunciation, Intonation, Stress

Translated Questions, Conversations, Stories, Sentences